

自主防災会に期待される役割について

- ・自主防災会運営の基本
 - 自主防災会の実態
 - 新しい防災リーダーへのアドバイス
- ・具体的な防災会活動事例
 - 情報伝達の工夫
 - 避難行動要支援者対応
 - タイムライン的な防災会のそなえ


令和5年5月18日

中越市民防災安全士会

会長 岸和義

長岡市の自主防災会


1 【自主防災会組織結成状況】 令和5年4月1日現在

	自主防災組織数		長岡市の世帯数	結成率
	組織数	左に属する世帯数		
長岡市	835	99,969	111,239	89.9%

(参考) 新潟県の平均結成率=87.9% 全国平均=84.7%・・・令和4年4月1日

2 【自主防災会の訓練実施率】

令和4年度実績

	組織数	報奨金支払い組織	訓練実施率
長岡市	835	573	68.6%

過去の実施率

令和元年	2年	3年
75.6%	60.0%	58.9%

3 【自主防災会長の任期】 非公式データ

約1.5年 (中越市民防災安全士会 自主防災会支援部 部員アンケート)

長岡市の自主防災会の実態 ①

昨年の防災対策基礎研修会でのアンケート結果

令和4年5月20日 対象者200名 有効回答者数 165名

自主防災会会長としての困りごと

防災会長や防災委員として

①	役員が1年交代で継続性がない	11
②	自身の防災知識の不足	4
③	町内会長用務が多忙。町内用務優先	3
④	連合町内会の役割がわからない	2

住民に対すること

①	防災意識が低い。協力が無い	18
②	要支援者の増加など高齢化の進展	13
③	マンションやアパート住民との連携	3
④	住民の意見のとりまとめに苦労	1

防災活動や研修について

①	情報伝達体制の構築ができていない	6
②	災害発生時の行動が不安	4
③	訓練必要だがどんなメニューがあるか	3
④	個人情報の取り扱いに腐心	2
⑤	要支援者を支援する人の発掘、割当	2
⑥	近くに適当な避難所が無い	2
⑦	地域に適合するハザードマップがない	2
⑧	避難所での役割分担は行政で決めて	1
⑨	自宅避難者の安否確認をどうするか	1

長岡市の自主防災会の実態 ②

町内での防災活動頻度は？

4-① 各自主防災会における防災活動頻度

回答132/参加171団体 回答率77.2%

計画がない/ほとんど活動なし, 42, 31.8%

年1回, 7, 5.3%

毎月1回以上, 1, 0.8%

毎月1回, 4, 3.0%

年間2~4回, 78, 59.1%

データラベル構成: 区分, 団体数, %

防災会長初任者へのアドバイス①

とにかく活動する

①年間数回の情報発信を行う。

- ・年間活動計画をたて、公表する
- ・訓練計画／結果を報告（回覧）する

②コロナを理由に完全休みにしない。

- ・役員だけでできる訓練や学習会もあり。
- ・住民に対して資料配布で防災の芽を残そう。

防災会長初任者へのアドバイス②

地域（町内）にあった活動を目指す

①今までの防災活動の引継ぎを行う

- ・ 前任者はどう考え行動したか？ やれたこと、積み残しは？

②今までの防災活動を自己評価する

- ・ 災害のリスク（洪水の可能性、土砂災害の可能性）と今までの訓練内容がマッチしているか。
- ・ 住民の声に耳を傾ける。（訓練内容、開催日時、周知方法）

③地域の変化を読み取る

- ・ 高齢者が増えているが、高齢者を視野に入れた訓練が無い？

防災会長初任者へのアドバイス③

孤立せず、チームで取り組む

① 今までの活動の聞き取り

- ・ 前任者も悩んだはず。 その前のリーダー達は？ 意見を聞く
- ・ 隣接町内での取り組みを聞く。

② 防災委員との話合い

- ・ 防災委員とは一心同体。 気が合う仲間もいるはず。
- ・ 防災委員は住民の代表。 不満、提案、疑問を聞き出す。

③ 長岡市提供の各種サポートを受ける

- ・ 毎年年度初めに提供される支援内容資料確認。
- ・ 中越市民防災安全士会への「よろず相談」でヒントを得る。

お薦めの防災活動



1

ちゃんと情報が伝わる

- ・ 情報連絡網／伝達訓練
- ・ 防災名簿
- ・ 警報の意味を知る

自主防災会

- ・ 避難所運営体制
- ・ 避難所の住民理解
- ・ 長岡方式の避難

安全な場所へ避難できる

- ・ 避難先の情報共有
- ・ 要支援者サポート体制

災害弱者を取残さない

2

情報伝達の重要性と準備 ①



情報の受け手は決まっていますか？

受けた情報の伝達方法は決まっていますか？

情報伝達の重要性と準備②

旧来の方法と新しい情報技術をハイブリッドで



従来からの「カワザ」での情報伝達

+



全員でなくともSNS利用で迅速伝達

古くからの「伝言ゲーム方式」や「役員が家庭をまわって伝える」方式・・・さまざまな問題が考えられます。

情報伝達の実際 ① (電話などでの伝言)

この町の事例

- ① 会長が副会長にメールで伝達
- ② 三役が班長、防災委員にメールか電話で伝える
- ③ 班長、防災委員は電話か訪問で各戸に伝える



【どんな問題があるか】

- ① 電話は1人ずつだと意外と時間がかかる。
- ② 班長不在時には伝達が停滞する。
- ③ 緊急時に要支援者などが電話に出してくれるかどうか。

従来型の情報伝達の問題点

従来型メディアの弱点

TV,ラジオ ————— 停電のリスク
家庭用電話 ————— 通信停止、輻輳で不通

一方、インターネット依存のメディアは災害に強い

訪問型伝達のリスク

夜間訪問は困難

豪雨、豪雪、強風時の訪問は危険



良い点もあるが、**頑張りだけでは無理**

情報伝達の実際 ② (SNSを活用し伝える)

LINEを使っている事例1

- ・町内役員（含む防災委員、班長）は基本的にLINEのグループに加入。
- ・町内一般住民もLINE加入者は上記グループに加入。・エリアメールの可能性も考慮。
- ・LINE未加入者には町内役員若しくは班員が訪問して伝える。

【行政などからの警報】

- ◆スマホ保有者がエリアメールで自動的に受信、自ら判断し行動する
- ◆スマホ未保有者などへは町内会長など役員が訪問して伝える

【町内としての連絡や指示】

LINE加入者へ

LINE未加入者へ



SNSネットワーク

- ◆町内会長など役員が訪問して伝える

各班の中で

● LINE加入者

○ 未加入者

→ ネット情報 - - - - - 訪問伝達)

【注意点はあるか】

- ① SNSネットワーク未加入者への配慮ならびに伝達する人の確定。
- ② ネットワーク利用のルールを用意し、時々伝達訓練を行う。

町内でSNSを利用する前に

- ① SNS管理者を決める（ネットワーク構築、管理）
- ② SNSに載せる情報を決める
（防災関係情報のみ？ 他の用途も視野に入れて活用したい）
- ③ 地域でSNS導入の狙いなどを周知し、多くの参加者を募る
（防災のみならず町内の多くの情報の伝達がSNS利用でスピードアップ）



- ④ 情報伝達方法、安否確認のルールを作り、訓練する

SNSを導入した場合のメリット

- ◆加入者が多ければ、大事な情報を大勢に瞬時に伝えることができる
- ◆加入者が多ければ、不在者をカバーしやすい
- ◆刻一刻と変わる状況を随時発信することができる
- ◆住民は情報の受け手でもあり、情報発信者にもなれる
- ◆現場写真やメモなどの映像を送受信できる

一方で、注意点としては

- グループに入っていないお年寄りなどへの伝達方法を決めておく
- 時々訓練を兼ねて連絡しあうことも必要
- 使い方、情報の出し方、行動規範などの基本についてルール化を

SNSなどに依存しない情報伝達もあり！

高齢者が多い中小規模の地域ではSNSでの情報伝達に依存せず、「**日頃のつながり**」を活かした情報伝達 & 支援も有り！です。



● 普段の話合いが大事

- ・ 消息、健康を確認
- ・ 災害についての話合い

誰が手伝ってくれるの？

どこに避難するの？

安否確認もセットで行いましょう



【安否確認の目的】

- 災害発生時に、誰一人取り残さない。このことについて実態を確認する。
- 「情報伝達」は目的ではなく、命を守るための手段です。伝えた結果、全員が安全にしていることを確認するのが「自治会／町内会」の役割です。

安否確認を行うための準備

安否確認を行うための基本 ～これらの整備から始めましょう

- ①どこで安否確認をするか（各戸訪問で？ 一時避難所で？ 避難所で？）
～複数回行う前提でも可です。
- ②どんな方法で確認漏れを防ぐか、ツールが整備されていること
～一般的には安否確認時に使える「防災名簿」の整備が行われます
- ③確認結果をどのように集約し、「確認できなかった人」を見える様にするか
～一般的には災害時の「本部」に集約し、本部は全体像を把握します。
- ④安全確認できなかった人をどうするかの大方針ができていないこと
～「安否確認できなかった人」が分かっただけでは何の意味もありません。
再調査や搜索、あるいは行政への報告など、いざという場面を想定しておきましょう。



お～い、いるか??

安否確認の事例

洪水時の安否確認

いっとき

- ① 一時避難所に集合した人を点呼する。
(集合場所がわかっている、点検名簿ができています)
- ② 現場に来なかった人を班長が訪問し確認し本部報告
(安否確認における班長の役割が決まっている ・ ・ などの準備必要)
- ③ ②で確認できなかった人を班長などが手分けして探す
(不明者に対するアクションが決まっている)
- ④ 上記で不明の人を「避難所」でも探す
(不明でした・・・では終わらせない)
- ⑤ 上記でも不明の場合、〇〇に届け出る
(行政などへの打ち上げタイミングや方法)



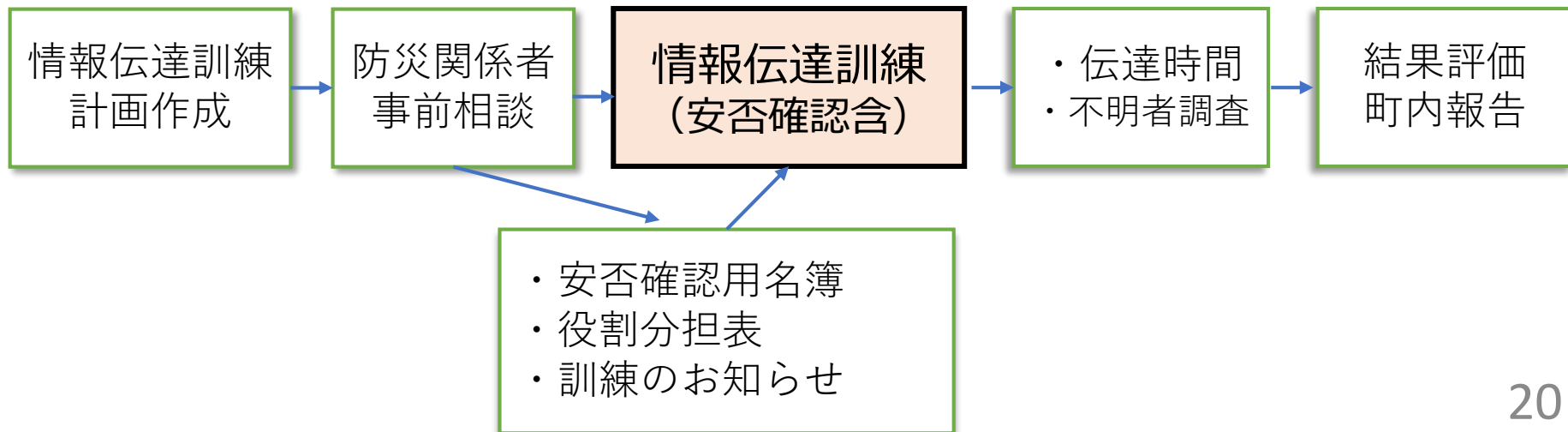
いろんな準備が必要だなあ



情報伝達のまとめ

情報伝達訓練で課題確認を

- 毎年6月に長岡市から実施を推奨されている「情報伝達訓練」に参加しましょう
 - ・災害発生時の混乱を防ぎたいですね。
 - ・平常時にじっくりと訓練に取り組み、あなたの町内の問題を抽出し、ひとつずつ課題解決に取り組みましょう。
- 訓練実施にあたり、防災用の名簿の整備、避難行動要支援者宅確認など基本的な確認を行いましょう。



避難行動要支援者対応の基本

避難行動要支援者の 避難支援ガイドブック

～ 災害時に支援が必要な高齢者や障害者の
地域での共助体制について ～

長岡市
中越市民防災安全士会
(公社)中越防災安全推進機構

令和3年6月1日 一部改正

町内会長に配布される冊子の要点をお話しします 21

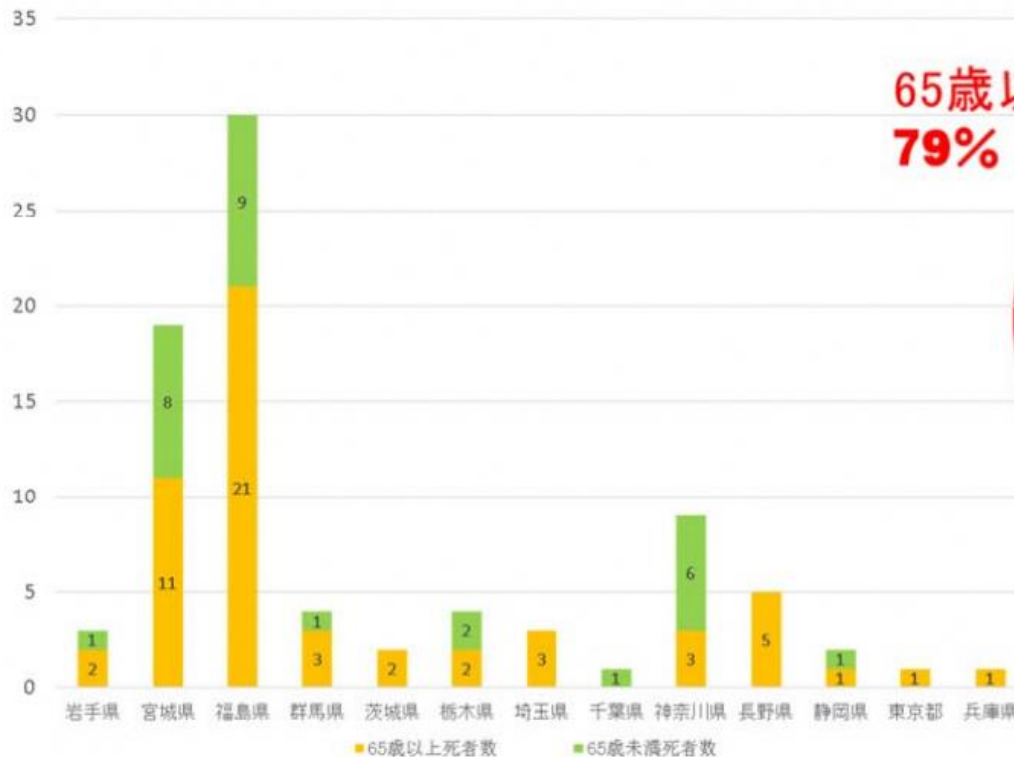
近年頻発する豪雨災害では、 高齢者など“災害弱者”に被害が集中

台風第19号による被害の特徴

多くの在宅高齢者等が被災した

- 台風第19号においては、高齢者や障害者等（要配慮者²⁰）の避難に課題があった。全体の死者84名(災害関連死2名を除く)のうち65歳以上高齢者は55名(約65%)であり、また、自宅での死者34名のうち65歳以上高齢者は27名(約79%)であった。また、障害のある方の避難が適切になされなかった事例もあった。

死者(関連死除く)



自宅での死者



防災白書 令和2年3月

中央防災会議 防災対策実行会議
令和元年台風第19号等による災害からの避難に関する
ワーキンググループ

避難行動要支援者とは？

高齢者や障害者などで「災害時に支援が必要な方々」です。

【高齢者】 調査基準
制約

- ・概ね要介護3以上
- ・単身高齢者/高齢者のみ世帯/高齢者と児童のみの世帯
- ・日中のみ独居の方は除外となる

【障害者】 調査基準
制約

- ・身体障害者手帳（1,2級）・療育手帳（A判定）・精神手帳
- ・世帯の全員が高齢者、障害手帳保持者、児童のみの世帯



要配慮者

避難行動要支援者

「要配慮者」の中で、自分で避難することが難しいため、特に支援が必要な方々

要配慮者

高齢者、障害者、乳幼児
その他の特に配慮が必要な方々

個人情報ではあるが・・・

この名簿は町内会長の他に
「助ける人」にも公開できるんだね！



- ・名簿情報は、地域の支援者と情報を共有することができます。
- ※ 地域の支援者とは、役員・班長・要支援者に協力する方などです。
- ※ 誓約書で禁止しているのは、地域の支援者以外への情報提供です。

大切なこと：要支援者との話合い

- だれが助けに来てくれるかわかる様にしておく。



- どういう支援が必要か確認する。
車椅子は？
介護の程度は？
どんな介護を受けてますか？
持出袋の場所は？
家族、身内による支援は？
- 困った時は、町内の役員や、となり近所に助けを求めてね、と。
- 年1回は顔合わせを。

個別計画とは？

個別計画の概要

●個別計画とは

避難行動要支援者に対し、あらかじめ個別に支援方法を決めておくことです。

取り扱い注意			
避難行動要支援者の個別計画書			
※この情報は、避難行動要支援者の支援以外には利用できません。			
作成日：令和 年 月 日			
基本情報			
町内会名			
住所	長岡市	性別	男・女
ふりがな		生年月日	年 月 日 (才)
氏名		電話 (FAX)	
世帯状況	<input type="checkbox"/> 一人暮らし <input type="checkbox"/> 高齢者のみ <input type="checkbox"/> 別居(本人含む 人) ※同居家族がいる場合のみ記入	身体状況	<input type="checkbox"/> 寝たきり <input type="checkbox"/> 歩行困難 <input type="checkbox"/> 虚弱である <input type="checkbox"/> 障害がある
前住先			
避難に関する事項			
必要とする支援	① 避難する際の声かけ ② 自宅上階や避難(場)所等までの付き添い・搬送 ③ 親族等への連絡 ④ その他()		
特記事項			
緊急時の連絡先			
氏名	住所	電話	続柄
		自宅	
		携帯	
		自宅	
		携帯	
		自宅	
		携帯	
氏名	住所	電話	特記事項 (支援の時間率)
		自宅	
		携帯	
		自宅	
		携帯	
		自宅	
		携帯	

支援を必要とされる方に関する情報

避難の際に必要な事柄

緊急連絡先

支援をする方についての情報

地域がなすべき事 ①

できる所から始めましょう

1, 「避難行動要支援者」避難支援制度を理解しましょう

P - 4, 5, 6

① 町内の支援体制を構築する

② 関係者（班長あるいは防災役員）で集まり、要支援者の事を学び、協力を依頼する。

- ・名簿を開示する（開示のガイドラインを守る）
- ・地域支援者を決める

P - 9

地域がなすべき事 ②

2, 要支援者の立場で考えてみましょう

① 要支援者個人に関する情報を整備する

- ・家族、親戚など方の考え方を確認しましょう。（本当にお願ひしますなのか？）
- ・介護や通院、疾患の状態を把握しましょう
- ・避難する際の制約や条件を確認する。（大事な薬、酸素ボンベ）

② どんな時に、どこに避難するのかを明確にする

- ・要支援者は基本的に「要介護3」以上ですので寝たきりの方も多く、何らかの介助が必要です。
- ・家族や本人に避難先が決めてあるかどうか確認。
- ・「福祉避難室」「福祉避難所」がどこにあるかを確認。

地域がなすべき事 ③

3, 様々な場面を想定してみましよう

- ①洪水（広域避難）の場合と地震の場合の違い
 - ・浸水深により避難行動が違ってきます。
- ②平日日中など、予定している支援者が不在の場合
 - ・実際は日中在宅の高齢者に依存せざるを得ません。
- ③要支援者と意思疎通できない、避難を拒否する等の可能性
 - ・究極の選択のシナリオを用意したい。

いろいろと課題が出てきそうですが・・

完璧を目指さず、できる所から

P - 17

地域がなすべき事 ④

4, まずは防災会長による制度の理解

- ・ 乗り越えられる個人情報への壁
(取り組まない理由にしない)



わが町の防災タイムライン①

令和元年10月に発生した台風19号により、長岡市には「避難準備・高齢者等避難開始」が発令。

この警報に対する町内の対応について聞き取りを行いました。

初動に問題あります！
適切な情報が出ていません！



はたして
自分は？

地区	活動	具体的行動など
H連合 丘陵含む	無し	・複数町内会長、コミセンタ-長とも「うちの地域は危険無いので騒ぐ必要なし」で 情報出ずに 。
O連合 信濃川沿い	△	・半分以下の町内においては要支援者に連絡し、支援した。 過半数町内はアクションなし 。
M連合 信濃川沿い	△	・一つの町内は手分けして要支援者を訪ね、要望あった人を避難所に。 アクションなし町内多い 。
T町 信濃川沿い	○	・準備情報で町内会長から班長に指示、12名の要支援者を訪ねた。結果だれも避難せず。
N町 信濃川沿い	○	・町内会長指示で班長が全対象者に知らせ、高齢者13名が指定避難所に避難した。
S町 ほぼ中心部	△	・町内会長が役員、班長に指示するも「 要支援者名簿が非開示であった 」。 即刻対策会議
O町 中心部	△	・町内会長から班長に指示し、高齢者に伝えたが、 避難者は「ゼロ」(独居老人多い町)
M町 中心部	△	・ 町内会長は動かず 。・民生委員が12名の要支援者に声掛け、6名が避難

わが町の防災タイムライン②

住民も防災役員も、期待どおりの行動がとれますか？

住民は主体的に身を守る行動ができるだろうか？

自分達役員は果たして動けるだろうか？

	自助 (個人、家族)	共助 (地域、防災会)	公助 (行政)
災害発生時の情報伝達	迫るリスクを知る (情報を得る、リスクを理解する)	迫るリスクを知らせる	迫るリスクを知らせる (警報発令など)
災害発生時の避難行動	安全な所に避難する	避難を支援する	避難所を開設する
平常時の活動	防災訓練に参加する	<ul style="list-style-type: none">・防災訓練を行う・情報伝達方法を構築・防災名簿を整備する	<ul style="list-style-type: none">・防災会結成を促す・防災活動を支援する・市民の防災意識啓発

何の準備もなければ「答えはNo！」です。教え、学び、訓練が必要。

わが町の防災タイムライン③

「こうなったらこうする」を町内で決めておき、混乱防止。

台風が来るらしい

▲名簿をチエック

雨が強くなった

▲防災係の役割確認

警戒レベル2

▲班長を集める

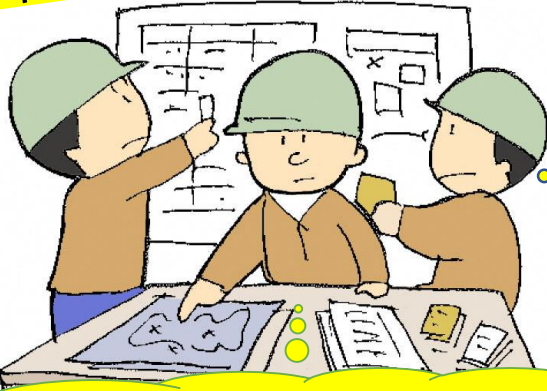
警戒レベル3

▲高齢者の避難手伝い

警戒レベル4

▲警報を全戸に伝える

“名簿は誰が持ってる？”



班長の集まりが悪いな！

吉田さんの係は？



わが町の防災タイムライン 事例

▲◆町自主防災会の約束

私たちは大雨／洪水時に以下のアクションを起こします

国・県	長岡市	私たち防災委員のアクション	課題
河川水位情報 ^{※2} ※「参考資料」参照	体制 発表情報 ^{※3} ～とるべき行動～		
警戒 注意喚起 早期注意情報 大雨・洪水注意報 ～災害への心がけを高める～		【自主防災会で準備開始】	①何を契機にして防災委員が集まるか？ ②臨時防災会議で何を決めるか
指 定 緊 急 避 難 場 所 を 開 設	浸水区域外 信濃川早期警戒情報 ～信濃川の氾濫に警戒～	・いち早く全家庭に避難を呼び掛ける (班長/防災委員)	警戒情報の理解が足りない
	警戒レベル3 高齢者等避難 ～危険な場所から高齢者、障がいのある方、乳幼児等は避難～	・全家庭に警報発令を知らせる (班長/防災委員)	情報伝達の体制が未整備です
	警戒レベル4 避難指示 ～危険な場所から全員がただちに避難～	・要支援者を訪ね、支援する (決められている支援者)	要支援者の制度の理解が必要
	警戒レベル4まで	・全家庭に警報発令を知らせる (班長/防災委員)	情報伝達の体制が未整備です
	警戒レベル5 緊急安全確保 ～命を守る最善の行動～	・全員の避難を確認する (町内三役～含む自主防会長)	危険を伴うので議論必要
		・全住民の安否確認をする (班長/防災委員)	事前の「避難予定先」把握

今の時点ではまだまだ備えが十分ではありません。重要な課題は以下の3点です。

- 1) 避難行動要支援者の安全な避難に向けて、町内の仕組みを整備します。
- 2) 町内の情報伝達方法を取り決め、年1回は訓練を実施します。
- 3) 住民の皆様とハザードマップを理解する講座を開催します。

わが町の防災タイムライン④

出前講座でわが町の防災力をアップさせましょう



- ◇自主防災会の洪水時の行動を想定してみます
- ◇災害発生時の防災関係者の役割をリストアップし、担当を考えます。
- ◇「準備不足」が発見されます。すぐには対応ができなくとも、講座をきっかけに体制づくりを始めましょう。

わが町の防災タイムラインシート【洪水版】

～自主防災会の避難活動計画～

「わが町の防災タイムライン」とは、洪水に備えて自主防災会等が自主的に行う活動を整理し、時系列にまとめた活動計画です。地域の特性を再確認し、いつ、誰が、どのような行動をとるか検討してあらかじめ決めておくことで、実行力のある活動につながります。

自主防災会名	
わが町の浸水想定河川	川

※長岡市洪水ハザードマップ参照

(参考) 令和元年台風第19号 の状況※1	国・県		長岡市		① 災害時の行動
	河川水位情報※2 <small>※「参考資料」参照</small>		体制	発表情報※3 ～とるべき行動～	内容 <small>※ 自主防災会の取り組みを決定し、時間ごとに整理しましょう (□にチェック)</small>
15時間前 10月12日 21時	<p><信濃川> 上流水位上昇</p> <p><信濃川> 氾濫注意水位到達</p>		警戒	<p>注意喚起</p> <p>早期注意情報 大雨・洪水注意報</p> <p>～災害への心がけを高める～</p>	<p><input type="checkbox"/> 気象・河川水位情報を収集する (「参考資料」参照)</p> <p>【収集先】</p> <p>・登録者等へ配信される情報 <input type="checkbox"/>長岡市公式LINE <input type="checkbox"/>ながおかDメールプラス</p> <p>・自ら収集する情報 <input type="checkbox"/>テレビ <input type="checkbox"/>ラジオ <input type="checkbox"/>気象庁HP <input type="checkbox"/>県河川防災情報システム</p> <p><input type="checkbox"/>カメラ監視システム <input type="checkbox"/>ながおか防災HP <input type="checkbox"/>SNS <input type="checkbox"/>民間防災アプリ</p> <p><input type="checkbox"/> 町内への情報伝達方法の確認・準備をする</p> <p><input type="checkbox"/>緊急連絡網 <input type="checkbox"/>住民名簿 <input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/>伝達方法 (<input type="checkbox"/>電話 <input type="checkbox"/>メッセージアプリ <input type="checkbox"/>声掛け <input type="checkbox"/>)</p>

本日取り上げた案件について 相談に応じます

災害時の情報伝達

避難行動要支援者対応

わが町の防災タイムライン

その他、出前講座で用意あるもの

- ・洪水ハザードマップの見方
(洪水時の避難行動含む)
- ・地震への備え
- ・土砂災害への備え
- ・応急手当
- ・災害食

私たち「中越市民防災安全士会」で左のテーマに関する出前講座をお受けいたします。

電話 0258-77-3918

メール

anzenshikai@nct9.ne.jp

- ・土日、火曜はお休みです。

最後に

皆様の活動を次の防災リーダーに
引き継いでください。

活動を積み重ねる事で、あなたの
地域の防災力は向上します。
